

第 74 回番組審議委員会議事録

1. 開催年月日 令和 7 年 9 月 3 日(水)午前 10 : 30～11 : 30

2. 開催場所 和歌山県田辺市宝来町 8-21 泉ビル 2 階

3. 委員の出席 委員総数 : 6 名

出席委員 : 4 名

出席委員の氏名 : 小倉拓、橘智史、

辻強志、猪野竜太

欠席委員の氏名 : 野村悠一郎、安達克典

放送事業者側出席者氏名 : 安田豊、洞周作、

生田奈穂、濱田由希子

欠席者氏名 : 安田正、大崎健志

議題 1) 局側挨拶 (現状報告)

2) 議題

☐番組聴取

7 月 24 日 (木) 10 : 00～からの「お昼ですよ！」内で放送したコ

ーナー「さきどり！FM 新宮」と、7 月 30 日（水）に発令された津波警報に係る緊急放送及び後日放送した真砂充敏田辺市長へのインタビュー（一部抜粋）をご聴取、ご意見・ご感想

3) その他番組への質問・意見

4) 今後の放送に対する意見・要望

5) その他

局側挨拶・報告

1. 局側挨拶

洞：お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2. 議題

～番組聴取～

橘：僕自身初めて聞いた内容なのですが、今回のように雑談のような気軽な形でまずはお互いに情報交換しながら、それぞれの番組や放送がより良くなればと思っています。昼や夕方に放送している番組を FM 新宮に無償で提供されているそうですが、その逆もあっていいと思うんです。お互いにとってプラスになれば、それが結果的に地

域や会社の利益にも繋がるはずです。新宮市も人口が減少している中で、ラジオ局という地域メディアが防災の面などで非常に重要な役割を果たしていると思います。ボランティア精神だけでなく、「続けられる形」で運営していくことが大切だと思いますね。

猪野：僕も同じように、新宮と協力しながら情報交換していけたらと思っています。例えば地震などの災害時にも、他の放送局と連携して情報を共有できるような体制を作るのは、とてもいいことだと思います。実際、災害だけでなく、日常的に地域文化や観光、お土産などの情報を交換し合うことでお互いの地域をより深く知ることができます。

洞：ありがとうございます。以前、FM 新宮がどうやって立ち上がったのかを聞く機会がありました。災害時の情報発信の必要性も背景にあるんですが、最初のきっかけは「WBS 和歌山」の新宮支局が閉局されたことだったそうです。そこで、元々アナウンサーをされていた柿白享子さんと地元企業「株式会社フリーク」の社長さんたちが協力し、「地域のためのラジオ局を立ち上げよう」と動かれたのが始まりとのことです。ちなみに、今回の放送で登場していたのは北道局長ですが、普段は柿白さんがメインパーソナリティとして番組を担当

されています。詳しい内容は、7月23日付の「紀伊民報」のウェブ版にも掲載されていますので、もしご興味あればぜひご覧ください。

濱田：今回は、FM 新宮とのクロストークコーナー「開局直後インタビュー」の回をお聞きいただきました。このコーナーは、現在も毎週木曜日の午前10時36分から放送しています。よければぜひ、生放送でもお聴きください。

続いて、津波警報発令時に放送した緊急放送等をお聞きいただきます。避難所開設情報などが届いた際の防災情報の放送、翌日田辺市長へ行ったインタビューの津波警報に係る部分をお聞きいただきます。

(再生)

辻：あの時は夏休み期間中だったので、校内には部活動や補習で来ていた生徒だけでした。本来であれば、グラウンドに避難する予定だったんですが、あの日は非常に暑くて、“このまま何時間も外で待たせるのは危険だ”という判断になり、最終的には校舎3階でエアコンをつけて待機する形を取りました。周辺の住民の方が直接学校に避難してくることはなく、ほとんどの方は市役所の方へ避難されたように思います。特に大きな混乱はありませんでしたが、感じたのは情

報の頻度の問題です。最初に津波警報が出ても、どこで地震が発生したのか分からない。『一体どこで起きたの?』という情報を探すのに時間がかかってしまい、結局、発表から15~20分経ってやっと状況を把握できた感じでした。今回は揺れがなかったので落ち着いて対応できましたが、もし実際に大きく揺れていたら、どうなっていたのか…という不安は残りましたね。心配なのは、“電源が使えなくなった時に、どれだけ情報を得られるのか”という点です。

濱田：普段どのように情報を取得されていますか？。

辻：基本的には、防災放送が流れた時や、ネットニュースを確認する形です。県からの連絡が入ることもありますが、全校一斉連絡なので、順番の関係で遅くなることも多く、正直県の情報は後手に回る印象です。結局、いざという時は独自で判断するしかないですね。もし携帯が使えなくなったらネットも見られない。情報が入らない状態でどう動くかというのは大きな課題だと感じました。今回は幸い大事には至りませんでした。こういう“実際に被害がなかった時”にこそ、どう対応すべきかを考える良いきっかけになったと思います。例えば、地震が発生した直後に『グラウンドで待機』という判断が本当に安全なのかどうか——そういうことも改めて考え直さなければい

けませんね。

濱田：仰る通りですね。東日本大震災や熊本地震、能登の地震のようなケースも踏まえると、“ラジオをつけてください”と呼びかけても、電力や通信が止まればそもそも放送を受信できない可能性があります。

洞：FM TANABE の場合、もし本体設備が無事であれば、局内からは緊急放送を流すことができます。ただ、もし局が被害を受けた場合は、すぐの放送は難しくなります。ただし私たちは、災害直後の放送だけでなく、避難所生活など災害後の情報発信にも重点を置いています。ライフラインや支援情報をきちんと伝えることが私たちの使命です。たとえ一時的に放送が止まっても、復旧後に地域の復興に役立つ情報を発信できるよう、体制を整えていきたいと思っています。

辻：なるほど。確かにそういう“復旧段階の情報”があると安心ですね。学校としても防災ラジオを備えておくなど、何らかの備えを検討したいと思います。

小倉：市役所には“臨時スタジオ”があるんですよね？

洞：はい、ブースがあります。ただし、放送用のアンテナは西牟婁復興局（送信所）に設置されています。停電などで通常のスタジオが使

えなくなった場合は、市役所ではなく振興局に直接行って放送するという仕組みです。つまり、スタジオ自体が無事であれば、停電時でもここから放送できる体制になっています。

小倉：なるほど。あくまで“臨時災害放送局”として、田辺市が立ち上げを宣言した時に使えるようになる仕組みなんですね。音声を聞いていると“田辺”とか“上富田”は出てくるけど、“白浜”が出てこないなと感じました。白浜は別エリア扱いなんですか？

濱田：白浜も放送エリアに含んでいます。白良浜などの観光情報や避難情報も、入手できればすぐ放送しています。ただ、その時々で情報が入る場所が違うだけですね。

小倉：白浜の方までカバーされているなら、聞く側としても安心です。

スターリンク（衛星通信）の導入などは検討されていますか？

洞：和歌山県内では一部の放送局が導入されています。ただ、FM TANABE の場合は VPN 回線という特殊な通信を使っているため、スターリンクを導入してもすぐに接続できる仕組みではないんです。専用の回線構築が必要で、かなりコストがかかるので現状は見送っています。

猪野：僕の話になりますが、あの地震当日、ちょうど娘を保育園に預

けたところだったんです。妻も僕も仕事で忙しかったので、新庄の実家へ預けた日に津波警報が出て、慌てて新庄中学校に避難したそうです。僕も後から合流しました。周りを見ていると、ほとんどの人がスマートフォンでニュースを見て情報を取っていました。でも、それ続けていると当然バッテリーが切れる。最終的に情報源として残るのはラジオなんですよね。ただ、普段からラジオに触れていない人は緊急時にラジオで情報が得られるという発想自体にたどり着けないと思うんです。ですから、非常時はラジオをと意識をもっと広める必要があると感じました。

橘：私もその日は出張中でした。注意報から警報に変わったということで、急いでレンタカーを借りて帰ることにしました。結局、出張は中止になりましたね。その後、ちょうど次の日に地元で防災関連の話し合いがあり、地域のまちづくり協議会の中でも防災をテーマに活動しているんですが、元・新庄中学校の先生から、当日の情報収集や対応について話を聞かせてもらいました。その中で、例えば地震発生から津波到達まで 30 分あるようなケースでは、“すぐ逃げろ”という全国放送の呼びかけももちろん大切なんですけど、地元レベルではもう少し具体的に、「今はここで 30 分の猶予があるから、その間に親

が迎えに行ける人は行ってもいい」などの柔軟な訓練や判断基準が必要じゃないかという話も出ました。今回は幸い高速道路が通行できたので戻れましたが、もし道路が通行止めになっていたら帰れなかったと思います。行政としては“まず避難を優先して”というのは当然なんですが、実際には庁舎がパンクして混乱したように、もう少し細かな避難体制や事前ルールづくりが必要だと感じました。

濱田：“落ち着いて避難してください”という言葉一つ取っても、状況によって受け取り方が違いますからね。

橘：そうですね。私たちも“落ち着いて行動しましょう”という意識を持っていたつもりですが、実際には道路が渋滞して、市役所へ向かう車で全く動かない状態でした。コンビニも次々に閉店して、本当に混乱していました。それに、避難指導の際に“車は止めて人を優先”という原則がありますが、実際には“車を通して人を止める”ような場面も見られて、『それって逆じゃないの？』と思ったくらいです。正直、この時代は“車で避難することも一つの選択肢”だと思います。

辻：中学校であれば徒歩避難ができますが、小学校だと送迎車が多く、一気に車がグラウンドへ流れ込むと混乱します。うちは高台なのでまだマシですが、低地の学校は避難経路が難しいですね。

橘：田辺湾の干潟あたりでも、水位が 30～40 センチほど上下していたようです。もし本当に大きな津波が来たら危なかったと思います。今回のように被害がなかったのは良かったですが、“率先避難が一番大事”というのは変わらないですね。

濱田：私たち放送側も、今回の放送では“急いで避難を促す”というより“届いた情報を正確に伝える”ことを最優先にしました。

橘：実際、どれくらいの津波が来るのか分からない状態での放送は本当に難しいと思います。オーストラリアや南米で発生した地震による津波は 24 時間かけて到達することもあります。今回の震源は北側で、日本列島を回り込む形になるため、“直撃はないだろう”という予測もできましたが、やはりその見極めを放送中にするのは非常に難しいですね。

辻：3.11 の時もそうでしたが、学校では先生たちが非常に敏感に反応します。ただ、今回のように被害がなかったケースは、結果的には“良い避難訓練”になったと思います。これを次の防災対策に生かしていきたいです。

濱田：仰る通り、今回の津波警報では大きな被害は発生しませんでした。逆にそれが“今後に備える良い機会”になったと思います。実際

に大規模地震が発生した場合には、さらに大きな混乱が想定されますので、今後も地域の皆さんと協力しながら、防災体制をより強化していきたいと思います。

3.その他番組への質問・意見

特になし

4.今後の放送に対する意見・要望

橘：放送そのものへの要望というより、地域活動に関することになりますが、私たち漁協でも地域住民と一緒に漁業体験イベントを行っています。最近では土曜日に実施し、20名ほどの一般参加者が来てくれました。満潮時に仕掛けを設置して魚を捕まえるという内容で、地域の方に非常に喜ばれました。こうしたイベントを、FM TANABEの放送や広報枠などで紹介していただけるとありがたいです。チラシなどをお渡しすれば、放送の中でも呼びかけていただけるとのことで、今後は積極的に情報提供させていただきたいと思います。

猪野：10月19日には“創立60周年事業”として、Big・Uでの企業説明会・職業体験イベントが予定されています。高校生を対象にしたもので、企業ブースのほか、飲食コーナーや謎解きイベントも行う

予定です。こちらでも周知してもらえると助かります。

辻：学校の立場から申し上げますと、これから 2 学期に入ると、どの学校もさまざまな行事が予定されています。そうした地域や学校での取り組みについても、FM TANABE さんにぜひ放送で取り上げていただけたらと思います。また、中学生の数が年々減少しており、今後和歌山県としても中学校の再編計画が再び検討されるのではないかと感じています。以前出された案は一旦見直しの方向で止まっていますが、今後は改めて全県的に見直す動きがあるようです。そうした中で、各学校がクラス削減を避けるための取り組みなどを懸命に行っていますので、地域の学校の努力や挑戦もラジオで紹介していただけたらと思います。

濱田：皆さんからの貴重なご意見を参考に、今後の放送にも反映していきたいと思います。

5.審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

特になし

6.審議機関の答申または意見の概要の公表方法

内容：審議内容について公表

方法：ホームページ掲載 (<http://www.fm885.jp/>)

7.その他参考事項

特になし